

本校の2年生の男子生徒が、2011年8月に実施された第2回「ヤング天城会議」に参加しました。この会議は日本アイ・ビー・エム株式会社が、将来の日本を担う世代である高校生を集め、グローバルに活躍するために何をすべきかを議論するための会合であり、全国から高校生が32名参加して静岡県伊豆市において2泊3日で実施されたものです。

以下は参加した本校生徒が書いたレポートです。

今回、ヤング天城会議に参加したことは、非常に良い経験になりました。

全体の流れは、講義を聞いた後、あるテーマを与えられて、それを定められた班ごとに分かれて討論し、討論した結果を発表するということの繰り返しでした。

講義はそれぞれとても興味深い話ばかりで、思わず聞き入ってしまいました。英語による講義もありましたが、何を言っているのかあまり分からず、自分が情けなくなると同時にもっと勉強しようという意識が高まりました。

何より感銘を受けたのは、その会議に集まった高校生たちについてです。皆とても意志が強く、全員が自分なりの考えや意見を持っていました。しかし、皆自分の考えや意見に固執せず、他人の意見を取り入れ、考えを再構築するということを無意識のうちに行っていると僕は感じました。

討論しているときはまるで戦争のように意見が飛び交いますが、誰一人として感情的になる人はおらず、皆冷静に考えていました。何より討論していると時間が短く感じ、討論会は基本的に食事前に行われたのですが、その食事中に討論するという光景が何度となく見られました。また、夜の自由時間でさえも一つの部屋に集まって討論したり、僕は帰りの電車の中でも討論していました。

討論した結果を発表するときに気づいたこともありました。それは、班で分かれて討論したにもかかわらず、まるで違う班の意見を盗んだかのように似ているところがあったことです。しっかりした考えを持った人たちが集まると意見が似てくるので日本、世界または個人に必要とされているものが明確になっていた気がします。もちろん僕の考えと似ているものもあれば、まったく違ったものになっているものもあり、そこで、僕が感銘を受けた「自分の意見に固執せず、他人の意見を受け入れて、自分の意見を再構築する」を真似してみようと、一度その意見を受け入れ、考えてみると、どれにも当てはまらない意見にたどりついたのでそれを発言してみると、その意見が皆を納得させるということもありました。

また、「グローバルな世界で活躍するためには何が必要か」ということに重点を置いた討論会もしました。僕たちの班では、「日本の文化を知ること」、「共有すること」、「常識を捨てること」があがりました。日本の文化に限らず、政治・経済など、自分の国を知って初めて外の世界を広げることができ、個人の考えやいろいろな情報を皆で共有したり、また、ある講義で、世界の文化には考えられないものが多いと分かったことから、常識を捨て、いろいろ受け入れる態勢でいることが大切だとなりました。

挑戦することも意見として出て、日本人、特に若者が好奇心をなくしているということにもつながりました。

僕は今回、一番大切だと思ったことは、話し合い、意見を交換し、共有することです。このような話し合いの「場」をもっとつくるべきだと考えます。ぜひ、和泉高校でもこのような話し合いの「場」を設けてもらいたいです。最初は3人、4人でも構いません。最終的には近くの学校から府外の学校までいろいろな学校と交流を深めたいです。意志を持っている人を集めて討論するとあれほど楽しく充実したものはないと心底感じています。

僕は今回の会議に参加して、自分の意識や世界観がガラリと変わりました。このような感覚は初めてです。

「TAKE ACTION」

これが、僕たちの班がグローバルな世界で活躍するために必要なものを実現させるためにすべきこととして考えたものです。おそれず、何事にも YES の考えで臨むことが今僕たちにできることだと意見がまとまりました。

僕はこれを機会に行動するべきだと思います。ぜひ討論会の「場」をつくりましょう。